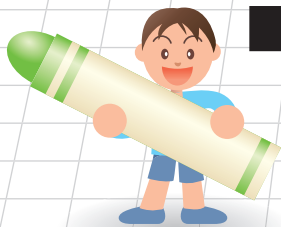


はじめよう  
交通安全への  
とりくみ

# ヒヤリ ハット マッヅ をつくらう



～その手引き～

和歌山県

# はじめに

和歌山県では、県民すべての願いである安全で安心して暮らせる社会を実現するための重要な要素として、交通安全の確保に向けた様々な取組が、県内各地で行われ、交通事故のない安全で安心な町づくりが行われているところです。

「ヒヤリハットマップをつくらう～その手引き～」は、そのような交通安全活動に携わっている皆様が、危険予測や交通事故防止能力を高めるため、「ヒヤリハットマップ」をつくる効果的な方法を習得していただくことを目的として作成しました。

「ヒヤリハットマップ」づくりは、地域の住民一人ひとりが「ヒヤリハットした体験」を基にして、交通の危険な場所を考えて地図に表示していく活動です。

この活動を通じて、地域の方々のつながりや地域への愛着をさらに深める効果も期待できます。

本書を手にした皆様が、地域の実情を踏まえ「ヒヤリハットマップ」を作成するとともに、今後とも引き続き、地域における交通安全活動の中心的な役割を担っていただきますようお願いいたします。

和歌山県環境生活部県民局県民生活課

# 目次

CONTENTS

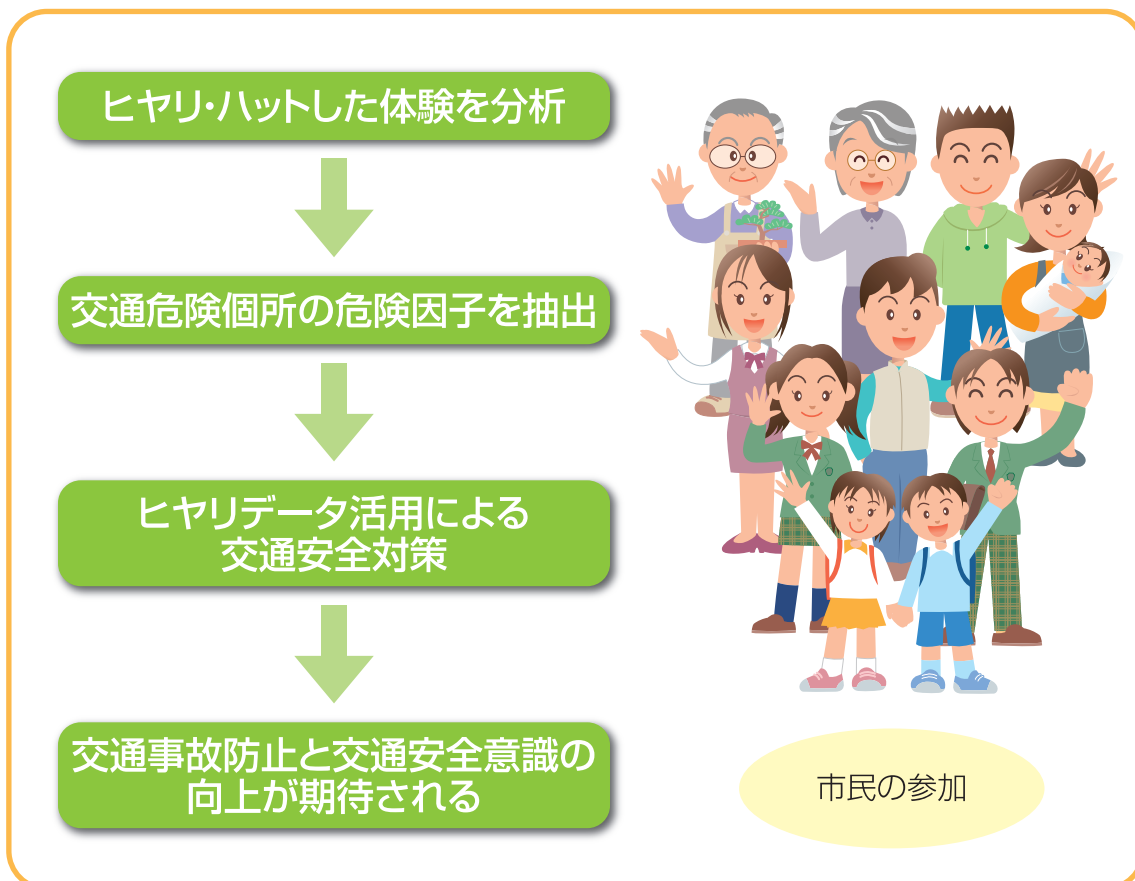
1	ヒヤリハットマップとは	1
2	ハインリッヒの法則とは	2
3	暮らしのまわりにたくさんある「ヒヤリ」「ハット」の経験	3
4	ヒヤリハットマップの作製をおすすめする理由	5
5	ヒヤリハットマップづくりの期待される効果	7
6	ヒヤリハットマップづくりの留意点	8
7	ヒヤリハットマップの作製手順	9
8	ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します	
	(1) 準備	10
	(2) 用意するもの	13
	(3) 作業の実施	15
	(4) 活用	18

# ヒヤリハットマップとは

交通安全へのヒヤリハットマップづくりは、公益財団法人国際交通安全学会の研究プロジェクトの中で、ハインリッヒの法則に基づき、鈴木春男千葉大学名誉教授らによって提案され、広く全国に普及したものです。当初は、高齢者の交通安全意識を啓発する方法として提案されましたが、その後、高齢者だけではなく、子どもや一般市民の交通安全意識を向上させる上でも効果的なアプローチであると認識され、さまざまな交通安全教育の場で広く活用されるようになったものです。

特に、交通安全対策を実施する潜在的危険個所を効率的に抽出し、抽出したヒヤリデータの利用を目的とするもので、これらの活動に市民が参加することで、継続的な交通安全意識の向上を図ることが期待されます。

## ●ヒヤリハットマップづくりの考え方



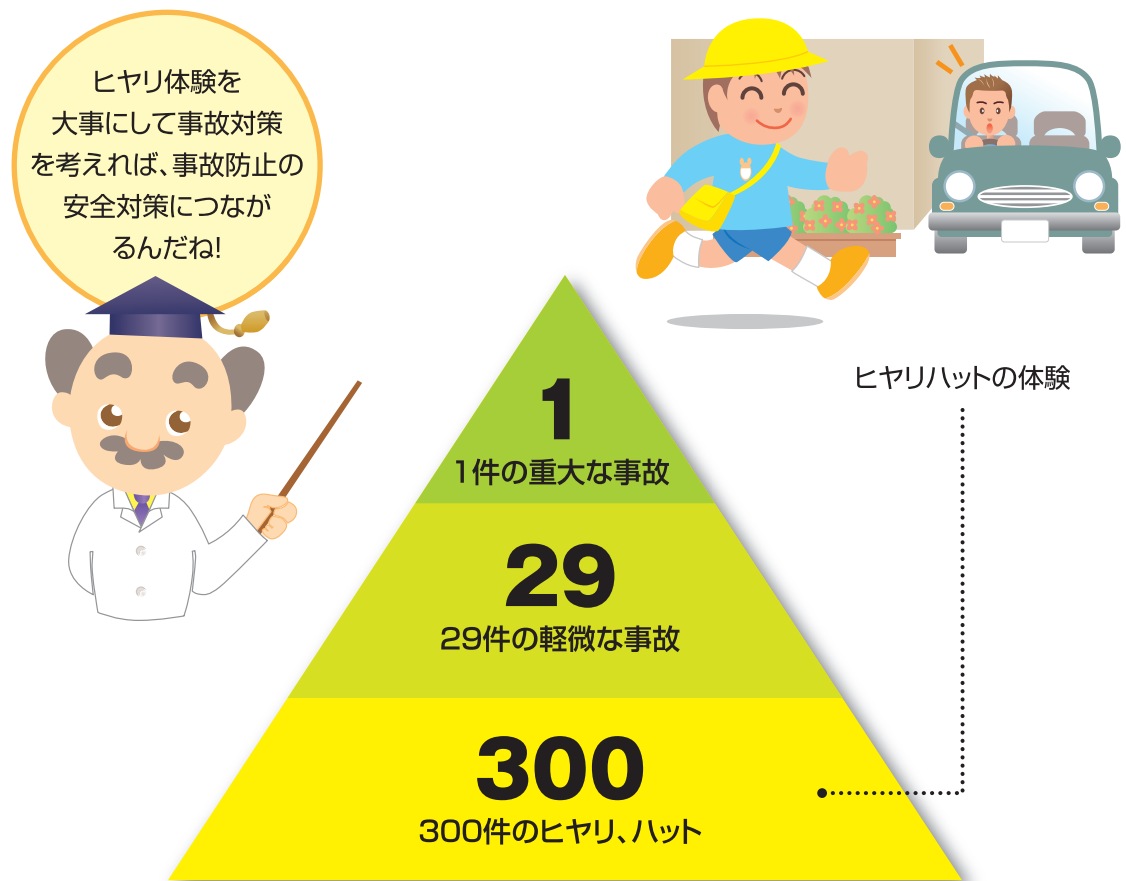
# 2

## ハインリッヒの法則とは

ハインリッヒの法則というものをご存じでしょうか？

アメリカの保険会社に勤めていたハインリッヒという人がいました。ハインリッヒは保険の対象となる事故について、重大事故と小さな事故、ヒヤリですんだケースについてその比率を調べたところ、重大事故1つの後ろには小さな事故が29、その後ろには幸い事故にならなかったヒヤリが300件あるという法則を見つけました。これを「ハインリッヒの法則」といいます(図1)。

ヒヤリ体験を大事にして事故対策を考えれば、小さな事故は防げますし、小さな事故のうちに安全な対策をほどこしておけば、重大事故は防げます。



(図1)ハインリッヒの法則

# 3

はじめよう交通安全へのとりくみ **ヒヤリハットマップ**をつくらう

## 暮らしのまわりにたくさんある「ヒヤリ」「ハット」の経験

歩いている、自転車に乗っていて、車を運転していて、ヒヤリとしたり、ハットしたことはありませんか？

### ●歩いている自転車にヒヤリ

- ◎突然、四つ角から自転車が曲がってきた。
- ◎無灯火の自転車が急に現れた。
- ◎後ろから自転車でベルを鳴らされ、どっちへ逃げればいいのかまごついた。



### ●歩いている自動車にヒヤリ

- ◎速度を落とさない車に吸い込まれそうになった。
- ◎横断歩道で、目の前を左(右)折車が、停まってくれず通り過ぎた。



### ●歩いている道路でヒヤリ

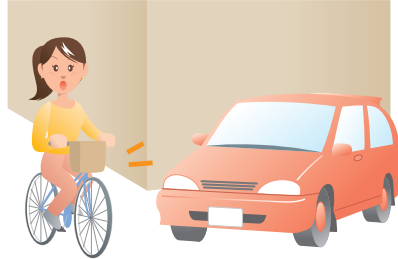
- ◎マンホールの出っ張りにつまづいた。
- ◎水たまりで滑りそうになった。
- ◎狭い道の端を歩いていたら、電信柱に邪魔されて、車が来る真ん中にでなければならなかった。



### 3 暮らしのまわりにたくさんある「ヒヤリ」「ハット」の経験

#### ●自転車に乗っていてヒヤリ

- ◎四つ角に出ようとしたら、出会い頭に車とぶつかりそうになった。
- ◎狭い道で、すれすれの所で車に追い越され、倒れそうになった。



#### ●自動車を運転していてヒヤリ

- ◎電信柱のかげから子どもが飛びだしてきた。
- ◎曲がり角から自転車が一時停止をせずに飛び出してきた。



この他にも、さまざまなヒヤリとしたり、ハットした経験をお持ちだと思います。

ヒヤリ体験は、事故になってもおかしくない状況で幸いにも事故にならなかった、あるいは事故を回避できたケースを表す言葉です。したがって、ヒヤリの原因は交通事故の原因とほとんど変わりません。



ヒヤリ体験を繰り返さないためには、なぜヒヤリとしたか原因を明らかにする必要があります。そうすれば同じ失敗はしなくなり、交通事故防止につながります。

# 4

はじめよう交通安全へのとりくみ **ヒヤリハットマップ**をつくらう

## ヒヤリハットマップの作製をおすすめする理由

### 人任せの交通安全から自分たちで築く交通安全へ!

ヒヤリハットマップの作製は、マップを作るのが目的ではありません。マップをすることで、交通安全意識とコミュニティの結束力を高めることが目的です。

今まで警察、行政、一部ボランティアなどに頼り、どこか人任せだった交通安全の対策を、ご自身で考え、自分の手で対策の糸口を探していただきたいのです。

徒歩、自転車、自動車、それぞれで、ヒヤリ、ハットした体験を地図にする。



地域交通についての問題点を顕在化させることができる。



交通安全意識とコミュニティの結束力の向上。





## 4 ヒヤリハットマップの作製をおすすめする理由

### 何でも話し合える友人を持つことで、自分の交通安全力を高めましょう!



何でも話し合える友人を持つことで、自分の交通安全力を高めましょう。友人をたくさん持つことは、交通安全力を高めるための効果的な方法のひとつです。

いろいろ調べてみると、その町に長く住んでいて地域に友人をたくさん持っている人は、事故やヒヤリ体験も少なく安全な人が多いという結果が出ています。仲間づくりは交通安全力を高める大事な手段です。

## ヒヤリハットマップづくり

### 交通安全教育の機会付与

ヒヤリハットマップづくりは、危ない場所を見つけたり、危ないケースを見つけて注意し合うという効果がありますが、ヒヤリとした体験を話し合う中で、仲間づくりを進めていくという意味でも、大変大事な交通安全教育の機会なのです。

### 交通安全力の向上

ヒヤリハットマップづくりなどをして、自分だけでなく他の人の安全のことを考えたり、そのための役割を果たしたりしていると、それは自分の交通安全力を高める結果になるのです。

# 5

はじめよう交通安全へのとりくみ **ヒヤリハットマップ**をつくらう

## ヒヤリハットマップづくりの期待される効果

### ●ヒヤリハットマップづくり—期待される効果—

#### 危険感受性の向上

危険感受性(予測能力)を高め、交通事故予防

#### 交通安全意識の高揚

交通安全への意識付け

#### 交通危険個所の認識

地域住民にしかわからない危険個所の掘り起こし

#### 地域コミュニティの活性化

マップ作製に伴う仲間意識の向上

#### 高齢者交通安全対策

マップ作製により高齢者の意見を反映

# 6

はじめよう交通安全へのとりくみ **ヒヤリハットマップ**をつくらう

## ヒヤリハットマップづくりの 留意点

**ヒヤリとしないのに、事故が多発している場所がもっとも危険な場所。**



チェック

「ヒヤリハットマップ」は人々がヒヤリとしている場所を見つけるのには役立ちますが、実際の事故が起こっている場所とそれが必ずしも一致しているとは限りません。

1

多くの人がヒヤリとしているが、事故が起きていない場所

こういう場所には事故が起きる危険性が潜んでいます。

2

ヒヤリとしている人が少ないが、事故が起きている場所

もっとも危険な場所といえます。

みんなが安心して、あまり注意しないで通っている場所で事故が起きているわけですから、もっとも危険な場所ということになります。

事故を引き起こす要因が隠れているはずなのにそれに気づかず、何の疑いも危険も感じずに通行しているということです。

重

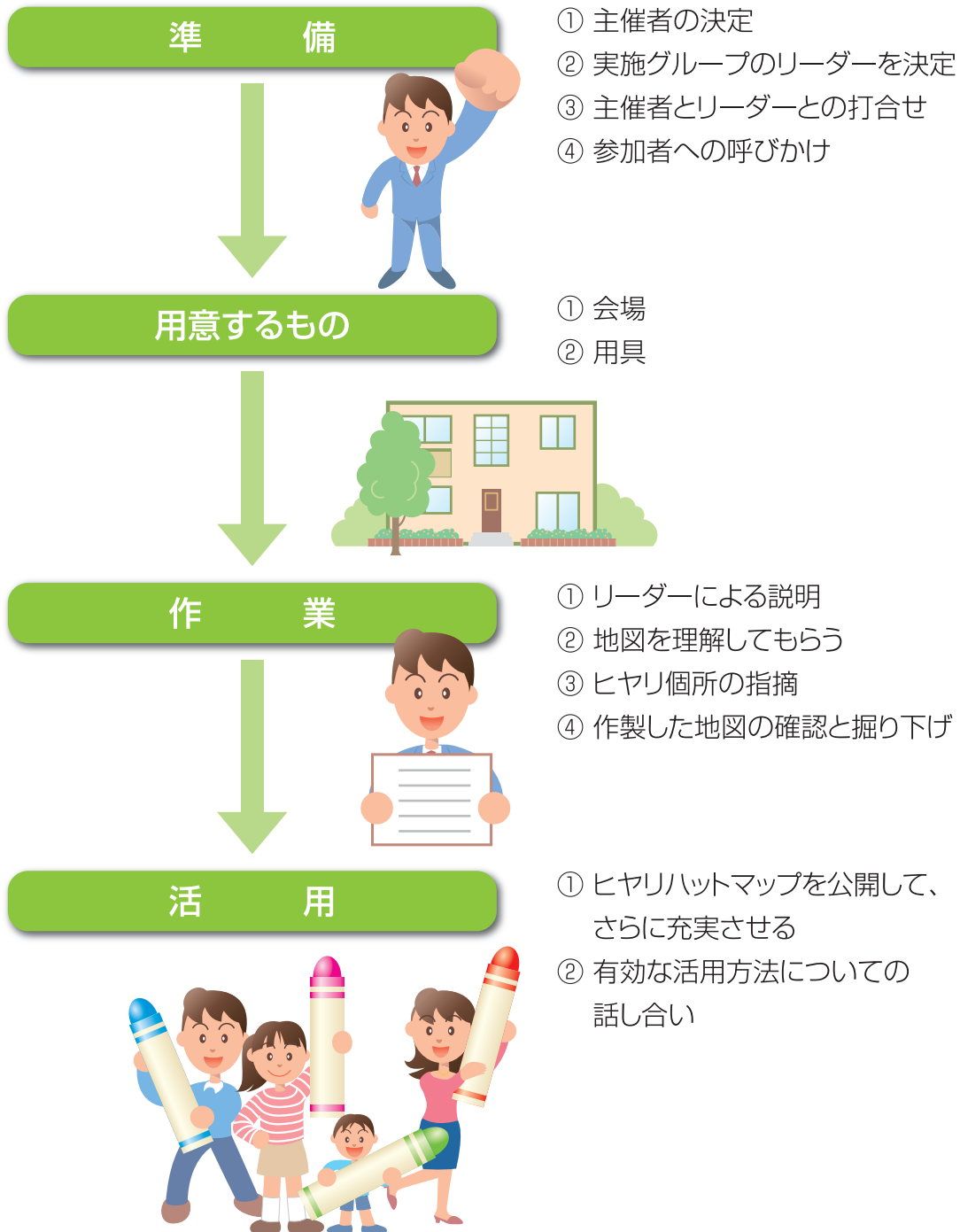
要

潜んでいる要因が何かを発見し、対策を打つことが第一ですが、少なくともそこが危険な場所であることを知らせることは最低限必要です。

警察や役所に任せるのではなく、近くの知人や家族に知らせることだけでも安全に貢献するはずですよ。

# 7

## ヒヤリハットマップの作製手順



# 8

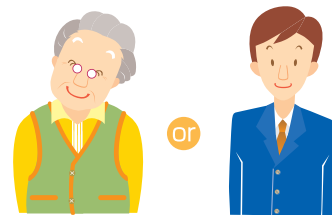
## ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します

### 1 準備

#### ①ヒヤリハットマップ作製の主催者をどこにするかを決めます。

主催者には、つぎの2つの場合があります。

- イ 主催者が地域の老人クラブや町内会などの場合
- ロ 主催者が自治体や地元の警察、あるいは関心を持つ団体になる場合



#### ②実施グループのリーダーを決定

- イ 主催者が地域の老人クラブや町内会などの場合

主催者は、リーダーとしてどんな人に期待できるか。また、どんなかたちで参加者を集めるかなどを決めます。

また地元自治体などに趣旨を説明し、協力を求めることも必要でしょう。場合によっては、用具や会場の手配や費用などについても、地元自治体などに相談する必要が起るかもしれません。



- ロ 主催者が自治体や地元の警察、あるいは関心を持つ団体になる場合

実施グループのリーダーを決定します。

リーダーに対して、ヒヤリハットマップ作製作業の目的や手順などを指導する必要があります。

ある地域で、実施グループが複数になる場合は、各リーダーを集めて、指導と打合せをします。



## 8-1 ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [準備]

### ③主催者とリーダーとの打合せ

#### イ 打合せの内容

具体的には、主催者がリーダーに趣旨を説明し、話し合いをしながら、できるだけリーダーの提案を取り入れて、計画を立てることが必要です。

さらにここでは、ヒヤリハットマップを作製するための手引きなどを使って、作業の進め方を説明します。

#### ポイント

ここでも上から進め方を押しつけるのではなく、リーダーの提案を受けながら修正していく必要があります。

#### □ 白地図を示す地域の範囲

主催者とリーダーとの打合せで、もう一つ重要なポイントは、白地図に示す地域の範囲をどの程度にするかという相談です。

作業に参加する高齢者などが日常生活の中で、買い物や通院、あるいは知人の家への訪問などで、どの範囲を主に動いているかで決まってくる事柄です。

一般的には、町内会や地域の老人クラブ、小学校区、中学校区程度の範囲がおよその見当になります。

町内会や老人クラブが単独で主催する場合には、主催者代表がリーダーを兼ねることがあります。その際は、リーダー自身でこの範囲を考えます。

#### ハ 模擬実験

リーダーに模擬的な実験をやってもらうことも理解を助けます。



## 8-1 ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [準備]

### ④ヒヤリハットマップ作製作業への参加の呼びかけをします。

#### イ 呼びかけの方法

主催者は、リーダーと相談しながら、また主催者代表がリーダーを兼ねる場合は自分で、ヒヤリハットマップ作製作業に参加者を募るために、どんな方法で呼びかけるかを決めます。

#### ロ 作業の日時

作業の場所や日時を決めます。

#### ハ 作業の模擬

参加してもらう人数は、1チーム15人前後で、時間は2時間は確保しておくのが適当です。

もしそれ以上の人々が参加を希望するようでしたら、2チームに分ける方法もあります。



## 8-2 ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [用意するもの]

# 2 用意するもの

### ① 会場

#### イ 会場の用意

できれば地元町内に、20人程度の人  
が集まれる広さの会場を用意します。  
前に1チームは15人前後が適当と書き  
ました。



それなのに会場は20人程度が集まることのできる広さをというのは、警察や自治体の人に見てもらったり、他の地区のリーダーたちに見学をしてもらうことがあるからです。

また、すでにヒヤリハットマップを作った地区のリーダーに出席を依頼し、指導を受ける場合もあるでしょう。

#### ロ 会場の条件

畳の部屋でもできますが、高齢者の場合、畳に座ることが辛い方もいらっしゃる  
ので、イスに腰掛けられる会場をおすすめします。作業台用の机は必要です。

#### ハ その他の備品

大きな白地図を貼るための板、あるいは、黒板やホワイトボードが必要です。

#### ニ ビデオ再生設備など

参加者が作業の手順を理解しやすくするために、できればビデオなどの視聴覚  
教育用の機器が揃っていれば最高ですが、なくても構いません。

#### ホ お茶、お茶菓子

気分をなごやかにするために、お茶などの準備ができれば理想的ですが、なくて  
も構いません。

#### ヘ テープレコーダー

リーダーが報告書をまとめるのに、テープレコーダーなどがあると便利でしょう。



## 8-2 ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [用意するもの]

### ② 用 具

イ 文房具(筆記具、はさみ、のりorセロテープ、記録紙など)

ロ 白地図

実際の作業を進めるにあたって、絶対に必要なものです。

ハ 白地図の作り方

住宅地図などを拡大コピーし、それを何枚か張り合わせて、1×1.5メートル程度の大きさにします。

ニ タックシール

白地図に貼り付けるための小さなタックシールを5色程度用意します。いくつものヒヤリの型の中から、自分たちの地域では特にどの型のヒヤリに注目するかで、タックシールの色を何種類使うかも変わってきます。

どんな型のヒヤリについてシールを貼るかを、参加者に相談して、3つから多くても5つ程度を選択します。時間にゆとりがあるようでしたら、自分の家の場所にシールを貼ると周辺の状況がわかりやすくなります。

#### ポイント

ここでいう「型」というのは、共通の性質、特徴をもつものどうしを、まとめてくっつけた一つのまとまりのことです。ヒヤリ体験には無数の場合がありますが、これを作業の都合でいくつかの型に分けます。

たとえば、「歩いていて自転車にヒヤリ」の型、「歩いていて自動車にヒヤリ」の型、「車を運転してヒヤリ」の型のように、別々の型として区別します。

ホ 色鉛筆やマーカーペン(各色)

みんながよく知っていたり、利用したりする施設や、大きな道路を地図上で目立つようにするために、色鉛筆やマーカーペンを用意しておくとう便利です。

ヘ アンケート用紙

ヒヤリハットマップを作り終わったあとで、参加した感想を記入してもらうためです。

白地図

本来の白地図は、地名やその他の記号、文字が記入されていない地図をいいます。しかし、この手引きでいう白地図は、単に色を使わず白地に黒で描かれている地図のことです。町名番地や道路名、施設名、さらに家名なども入っています。

タックシール

台紙に貼り付けられた●赤、●青、●緑、●黄、●黒などの小さな円型の紙です。これを1枚1枚剥がして、白地図に貼り付けます。紙の裏は粘着性があるので、簡単に貼り付けることができます。



## 8-3 ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [作業の実施]

### 3 作業の実施

#### ①リーダーによる説明

##### ポイント

大事なことは、参加者が上から言われて行うのではなく、自分たちのために、自分たちの企画で地図を作っているのだと実感してもらうことです。

##### イ 趣旨説明

リーダーは一方的に話すのではなく、参加者から質問や提案を受けながら、趣旨の説明を進めます。

##### ロ 進め方の説明

次にリーダーは、本書やビデオを使って、作製作業の進め方を説明します。

リーダーは、考えられるヒヤリ体験のいくつかの例の中から、その地域の特性を判断して、どんな体験のヒヤリ場面に絞って取り上げるのが適当かなどを、参加者の意見をできるだけ取り入れながら決めていきます。

- たとえば
- 歩行中にヒヤリ
  - 自転車に乗っていてヒヤリ
  - 車を運転していてヒヤリ



等の体験を入れるかを、参加者の意見をできるだけ取り入れながら決めていきます。

ヒヤリ場面の体験の種類に応じてタックシールの色数も変わります。

##### ハ (必要なら)地域の範囲の再検討

すでに用意してきた白地図も、その中での対象地域の範囲について、参加者と話し合う必要が生まれるかもしれません。

そのことは参加者に、地図をよりよく理解してもらう助けにもなるでしょう。

##### ニ (必要なら)軽い練習、あるいは相談

みんなが堅くならず、積極的に発言してもらったり作業をしてもらうために、軽い準備運動として、「きょうはここまで、楽に来ることができましたか？」などについて、みんなに簡単に語ってもらうのもいいでしょう。

## 8-③ ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [作業の実施]

### ②作業1 (地図を理解してもらう)

#### イ 地図の上の主な建物や道路などを確認

参加者に実際に作業してもらうには、第1に地図を理解してもらうことが大事です。理解を助けるために、地図上の主な建物や道路などを色鉛筆やマーカーペンで塗りつぶすなどの方法があります。(事前にリーダーがその作業をしておけば、作業時間は短縮されます)。

#### ロ 現在作業している会場を地図上で確認

作製作業をする会場の位置にしるしをつけることも大事です。

#### ハ 地図の上で各参加者の家を見つける

地図にある各参加者の家に共通の色のタックシールを貼ってわかりやすくしましょう。

こうすることで地図を理解して、ヒヤリ個所を見つけやすくなります。

### ③作業2 (ヒヤリ個所の指摘)

リーダーはできるだけ和気あいあいと作業が進むようにリードします。

#### イ 参加者の一人ひとりがタックシールを配る

#### ロ シールを貼る順序

まず歩いていて車にヒヤリとした個所(交差点、道路など)に、一人ずつ順番にシールを貼っていきます。



#### ハ 同じ場所でもどんどん貼る

同じ場所で何人もがヒヤリとしたなら、少しずつしてどんどん貼ります。これは重要なことです。何枚も貼られたところは、特に危ないところということになります。

#### ニ 自分の貼った個所が少なくてもいい

貼る場所が少ない人が恥ずかしがることはまったくありません。また、誰かが貼ったところを、他の人が「そこは危なくない」などと否定しては絶対にいけません。

#### ホ 道のでこぼこにも貼る

車によるヒヤリが終わったら、別の色を使って自転車によるヒヤリへ、次には車を運転しているのヒヤリへと進みます。

## 8-3 ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [作業の実施]

さらに道路のでこぼこでつまずきかけたり、見通しが悪くてこわい思いをしたり、放置自転車が空間を占領していて、危ない場所、不愉快な場所を「道路でのヒヤリ」として、別の色のシールを貼ります。こうして白い地図の上に色のついたシールがどんどん貼られ、見た目にもなかなかきれいなヒヤリ地図ができ上がります。

### ④ 作業3 (作製した地図の確認と掘り下げ)



#### イ シールの貼られた場所をみんなで再確認します。

どこにシールが集中しているかなどをみんなで確認します。

これまでの例では、作製が終わると、みんなで作った地図だということで、多くの参加者が達成感を感じるようです。

#### ロ リーダーは、ヒヤリ個所の説明を参加者に求めます。

シールの貼られた場所について、貼った参加者にそこがどんな場所かを説明してもらい、なぜ、どのようにヒヤリとしたのか語ってもらいます。

昼か夜か、晴れていたか、雨だったかなども確かめます。

参加者の説明は、地図の前に出てきて話してもらうと、みんなにわかりやすくなります。

#### ハ 気がついたヒヤリ個所の改善提案を出してもらいます。

もし時間に余裕があれば、気分転換も兼ねて、会場近くのヒヤリ現場に出て点検してみることも効果が上がります。

#### ニ リーダーは、あととのために、この会合の記録をとり、報告書を作ります。

#### ホ できれば、ヒヤリハットマップと、同地域の「事故発生地点図」とをくらべてみましょう。

警察の協力で、もし地域の「事故発生地点図」が手に入れば、それとヒヤリハットマップとをくらべてみることも大切でしょう。

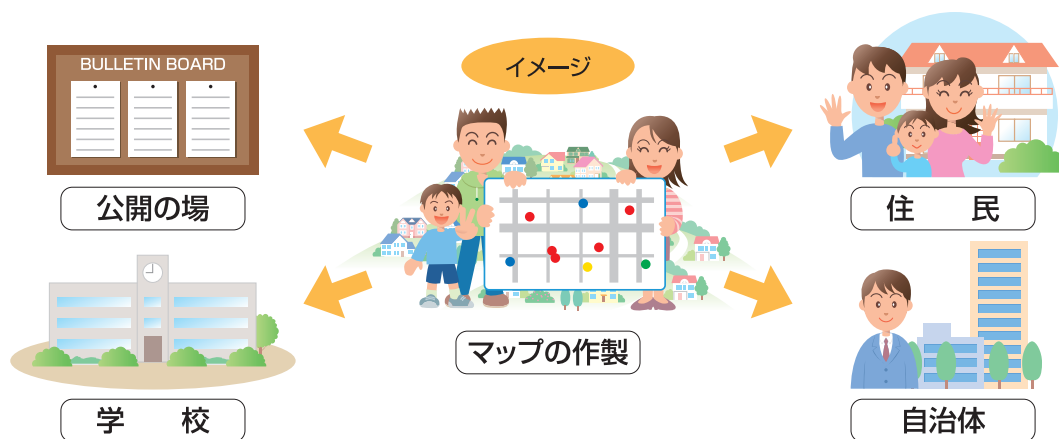
## 8-4 ヒヤリハットマップの作製手順を少し詳しく説明します [活用]

# 4 活 用

### ① ヒヤリハットマップを公開して、さらに充実させましょう。

公開の方法は、印刷して配るというやり方もありますし、公の場所にヒヤリハットマップを掲示する方法もあるでしょう。

さらに、それを見た人にヒヤリ個所を追加してもらうという仕方もあります。これはより多くの人に、まちの危険への関心を持ってもらうことにもなります。



### ② 有効な活用方法についての話し合い

作った地図を、地域の交通安全のために役立ててもらおう活動に発展させるためのアイデアをみんなで出し合ひましょう。

「ヒヤリハットマップづくり」はこうした活動を通して、参加者が安全に向けて動機づけられることを目的としています。加えて、できあがった地図を活用していくことも意義深いのです。

#### ポイント

自治体で入手した地図や市販の地図に手を加えたものを掲示したり、印刷・配布するときは、著作権の関係上、承認を受ける必要があります。もよりの自治体または発行元にご相談ください。

## 参考資料

---

○「ヒヤリ地図をつくろう～シルバーによるシルバーのための交通安全～その手引き」

公益財団法人 国際交通安全学会（※平成24年9月18日転載許可取得）

○「いきいき運転講座」

一般社団法人 日本自動車工業会

---

## 「ヒヤリハットマップをつくろう～その手引き～」 についての問い合わせ先

和歌山県環境生活部県民局県民生活課

TEL.073-441-2350

FAX.073-433-1771

（平成24年11月発行）

